十一月号塾だより

発行
2021.10.22
編集
山口学習塾
山口将志
樋口淳一
矢田力椰

今月号のトピックス

・二学期期末テスト対策
・今が勝負の分かれ目
・目標を小分けにしてみる
・本の紹介コーナー

二学期期末テスト対策

☆１１月３日(水)から二学期期末テスト対策を開始いたします。

・詳しい日程は後日、生徒たちに配布していきます。今回のテスト対策期間も学校ごとに違うテスト日に考慮して、開始日を変えています。
・欠席・遅刻は可能な限りしないようにお願い致します。欠席・遅刻が多い生徒と、欠席・遅刻をほとんどしない生徒の成績の差がかなり出ています。連絡をいただいた場合には、欠席・遅刻は認めていますが、学習時間が減ってしまうことに変わりありません。
・３年生は時間にとらわれず、目一杯学習してください。これが受験に関わる最後の定期テストです。

今が勝負の分かれ目

ちょうどこの記事を書いているのが第５回北辰テストの結果が返され始めたころですが、毎年、第５回の北辰テストは苦戦する生徒が非常に多いです。二学期中間テストと第５回北辰テストは、ちょうど行われる時期が重なるようになっていることが多く、どちらのテストも同じくらい重要なため、どちらの学習もしなければなりません。第４回北辰テストは一か月間、夏期講習でみっちりと学習することができましたが、第５回北辰テストはそうもいきません。毎年、山口学習塾でも偏差値を落としてしまう生徒が出てしまいます。

北辰テストの偏差値が落ちてしまう理由いくつかあります。１つ目は正解できるはずの問題を間違えてしまうことです。数学で言えば単純な計算問題、英語で言えばスペルミスなどがそうです。単純な問題を間違えてしまうと偏差値は下がってしまうことが多く、偏差値を上げるとこは非常に難しくなります。

２つ目は他の人と比べて学習量が足りていないということです。偏差値は相対的な数値なので、自分のテストの出来だけではなく、他の人のテストの出来によって数値が高くなったり、低くなったりします。いつもと同じように学習していて、いつもと同じような点数でも、他の人がそれ以上に学習していていつもよりテストの点が良ければ偏差値は下がってしまうことがあります。重要なのは他の人より学習しているかどうかということです。塾長の山口も塾だよりや、ブログの記事で何度も言っていると思いますが、学習量とは、机に座っている時間ではありません。暗記した語句、英単語、解けるようになった問題の量のことを言います。机に座っているだけでは成績は伸びません。受験生はもう一度、自分の行動の基準が低くなっていないか自分に問いかけてみてください。眠気に負けてしまっていないか、分からない問題を質問せずにスルーしていないか、必死に暗記をしようとせずに手を抜いていないか。

そして想像してください、もしこれから入試までそれらのことを続けたら一体どうなるのかを。

今、この時期が勝負の分かれ目です。現在、志望校に届いていない生徒も、ここから本気になれば、届く可能性は十分にあります。本気になるのが一日遅れる度にその可能性は少しずつ低くなっていきます。もし手を抜いてしまっている人は一日も早く、目の前の課題に必死に取り組んでいた夏期講習のような姿を取り戻してください。

（樋口）

目標を小分けにしてみる

勉強に関係のない話で申し訳ございません。私は2年くらい前から健康維持のためにスポーツジムに通っています。コロナ騒動で一度辞めてしまいましたが、最近また復活しました。ジムでは主にランニングに力を入れています。ランニングというと、塾長の山口や足の速い生徒さんがたくさんいらっしゃいますので、話題にするのは少し恥ずかしいのですが、温かい目で見ていただけたら幸いです。

今こそ10kmくらいは走れるようになりましたが、ジムに通い始めのころは、運動自体が約10年ぶりだったので、1kmで体力の限界が来ていました。ある程度体力が戻ってからは、1km→3km→5km→10kmと走る距離を徐々に増やしていきましたが、やはり増やしたばかりの時は本当にキツイです。1kmを走れる体力しかないところを、無理やり3kmに増やすわけですから、きついのは当然ですよね。ボタン一つでランニングマシンは止まります。1kmで走るのをやめてしまおうかと考えたことも何度もあります。でも絶対にやめませんでした。一度辞めてしまうと癖になってしまう気がしたからです。とはいえ、きついものはきついです。投げ出したくもなります。しかし、あることを実践したおかげで、途中で投げ出さずに済みました。それが、タイトルにもある「目標を小分けにしてみる。」です。例えば、最終的に3km走ると決めていたとしても、初めの目標を「1km走る」と設定します。そして6分で1kmを走ったとしたら、次の目標を「10分まで走る」とします。10分走り切ったところで、大体1.5kmくらい走っているので、次の目標を「2km走る」とします。こうして、「距離の目標」と「時間の目標」を交互に立てていきました。(「コイツ走るの遅いな…」というのは置いといてください!!) 最初から目標を3km走る！という風にしてしまうと、長い時間走らなければいけないので途中で嫌になってしまうのですが、「これくらいまでなら頑張れそうだな」という目標を立て続けることで、最終的な目標である距離まで走っていました。

無理やり勉強の話につなげてしまいますが、皆さんも勉強が辛いと感じたとき、「とりあえずこのページまでは頑張ってみよう」「このページまで終わったから、今度は〇時まで頑張ろう」といった感じで、目標を小分けにしてみてはどうでしょうか。

（矢田）

本の紹介コーナー
千葉雅也『勉強の哲学』

突然ですが皆さん、勉強は好きですか？

返答を聞くまでもなく、嫌いだという人は多いかと思われます。難しい漢字や数式とにらめっこしたり、長ったらしいアルファベットの羅列に頭を悩ませたり、生まれてくるずっと前のことを学ばされたかと思えば、電子とか原子とか目に見えないものについて学ばされる。勉強の悪い部分を挙げていけばきりがありません。

かくいう私も、塾のサポーターを務めてはいますが勉強は嫌いです。勉強が好きなカリスマ講師やYoutuberもいらっしゃいますが、彼らには尊敬の念を禁じえません。私も将来、塾での経験を生かして教育系Youtuberとしてデビューしたいと思い、毎日毎日、家で動画の始まりのあいさつの練習をしていたのですが、泣く泣く諦めようと思います。「好きこそ物の上手なれ」ということわざの通り、勉強が好きな人にはどうやっても勝てませんから。

さて、勉強が好きな人と嫌いな人の違いはなんでしょう？そもそも勉強とは具体的にどのような行為なのでしょうか？

現代の哲学者、千葉雅也は自身の著書『勉強の哲学　来たるべきバカのために』で“勉強とは、自己破壊である。”と述べています。これはごくごく単純化して言えば、勉強という行為を、過去の自分を破壊して新しい自分になる行いだと再定義していることになります。

皆さんは勉強という行為についてどう思っているでしょうか。何も考えずにただひたすらにペンを動かしている方も多いのではないでしょうか。しかし時には「勉強」そのものについて勉強してみるのもいいかもしれません。そうすることによって、ただ何かを書いたり読んだり覚えたりするといった従来の勉強の見方が変わり、より深く何かを学ぶことが可能になり、新しい自分になることが出来ると思います。

千葉雅也 著『勉強の哲学　来たるべきバカのために』は勉強について、そして自由について言語の観点から分析した本です。勉強すること、新しく何かを知って絶えず自分を創りかえていくことはおそらく一生涯続いていきます。当然、中学校を卒業し高校生になり、そして大学生や社会人になった後も勉強は続いていくのです。そういった人生を楽しく送るためにも、勉強とは何であるか、具体的なイメージを持っておくのが良いと思います。フランス哲学の流れをくんでいて少し難しいかもしれませんが、挑戦してみてはいかがでしょうか。

（大崎）